

東京南線3,4号線改修工事 環境影響予測評価書案の概要

令和8年1月27日
東京電力パワーグリッド株式会社



目次

1. 対象事業の概要	2
2. 評価項目	34
3. 環境影響予測評価の手法等	37
4. 環境影響予測評価	46
5. 事後調査計画	65



1. 対象事業の概要

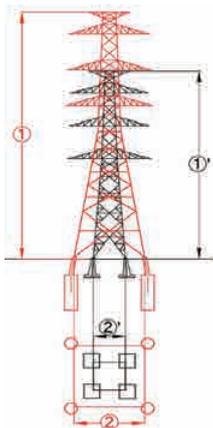


対象事業の目的

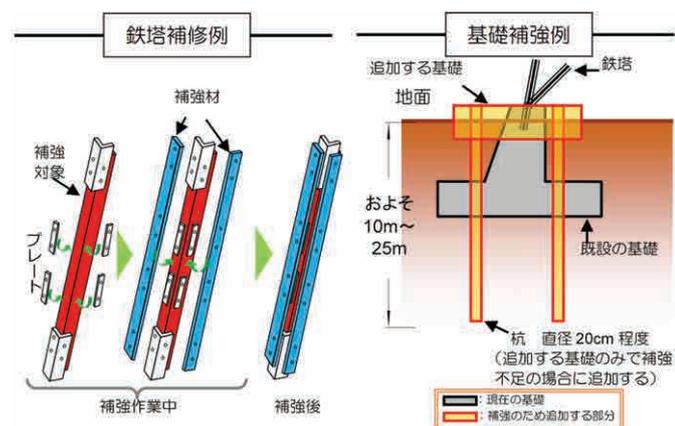
【環境影響予測評価書案p.1-1-1】

- 東京南線3,4号線は、昭和39年に建設され概ね50年以上経過した設備です。
- 送電線設備の劣化進行により、損壊による公衆災害の発生や電力の供給障害が発生するおそれがあることから今後も電力の安定供給を図るため、改修工事（鉄塔建替・鉄塔補修・基礎補強）を実施するものです。

鉄塔建替の概要（P. 19 参照）



鉄塔補修・基礎補強の概要（環境影響評価は対象外）



◆ 生活環境への配慮

- ✓ 工事時間の制限
→9：00～17：00を原則
- ✓ 建設機械の稼働
→日々の点検整備・アイドリングストップ・集中稼働の回避
低騒音・低振動型建設機械を採用
- ✓ 工事用車両の運行
→通勤車両と資機材運搬車両の時間別の運行
(資機材運搬は通勤・通学時間帯を回避)
交通誘導員の配置
- ✓ ヘリコプター運搬
→モノレール運搬を併用し飛行回数の削減
飛行時間帯・1日当たりの飛行時間の制限
各学校との協議結果の反映



◆ 土砂流出への配慮

- ✓ 発生土
→フレコンバッグ（P.24 写真参照）による飛散防止
速やかな場外搬出
- ✓ 仮設ステージの設置
→斜面での作業スペースを確保するため仮設ステージを設置して、
原地盤の造成を回避



◆ 自然環境への配慮

- ✓ 伐採の最小限化
 - ヘリコプター運搬とモノレール運搬の選定
 - 過去に実施した工事用地の活用
- ✓ 猛禽類への対応
 - 営巣期間を配慮した工程
- ✓ 廃棄物処理
 - 現場使用する油類保管場所の確保と適正な処分計画の立案



◆ レクリエーション資源

- ✓ ハイキングコース
 - モノレールルートと重なる箇所はモノレール橋を構築
 - 利用者に配慮したモノレール運転と誘導員の配置
 - 迂回路の構築について関係箇所と協議

◆ 景観への配慮

- ✓ 横須賀市、逗子市、葉山町の景観計画等の基準を遵守



事業者：東京電力パワーグリッド株式会社

事業名称：東京南線3,4号線改修工事

～ 本事業が該当する条例上の位置づけ ～

事業の種類	電気工作物の建設（電線路）
規模	延長1km以上かつ電圧17万V以上の架空送電線
実施される地域	乙地域
地域区分	近郊緑地保全区域（乙地域） ✓ 逗子・葉山近郊緑地保全区域 ✓ 衣笠・大楠山近郊緑地保全区域



実施区域の位置

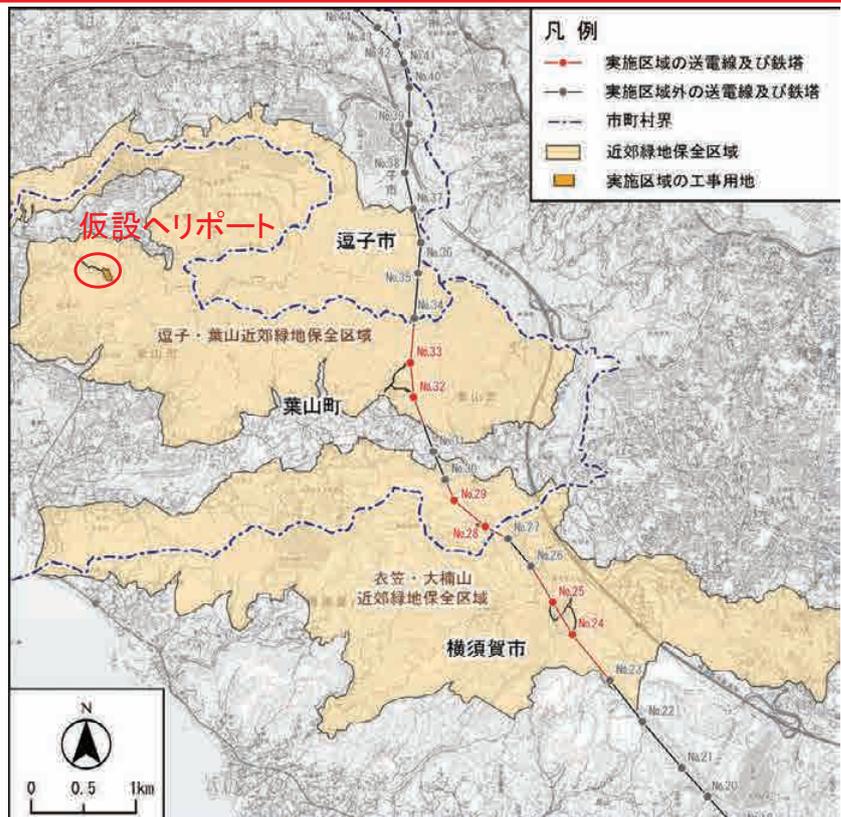
◆ 実施区域

近郊緑地保全区域に含まれる建替鉄塔6基及び隣接する鉄塔までの送電線が実施区域に該当し、以下のものも含まれる。

- ・ 鉄塔工事用地
- ・ 運搬設備用地
(モノレールルート、仮設道路)
- ・ 資機材の積替え用地
- ・ コンクリートの圧送用地
- ・ 仮設ヘリポート

◆ 通過市町村

- ✓ 横須賀市
- ✓ 逗子市
- ✓ 三浦郡葉山町



◆ 地形

大部分が大起伏丘陵地
または小起伏山地

◆ 植生

シイ・カシ二次林、
オニシバリ・コナラ群集、
アカメガシワ・カラスザ
ンショウ群落などにより
構成

◆ 景観など

周辺に大楠山や二子山
展望台などの眺望地点が
存在し、大楠山ハイキン
グコースなどが存在



実施区域の規模

東京南線3,4号線

用途	内容
鉄塔用地	鉄塔6基
送電線線下用地	延長約3.3kmの送電線線下
工事用地	鉄塔工事用地、運搬設備用地（モノレールルート）、 資機材積替え用地、コンクリート圧送用地

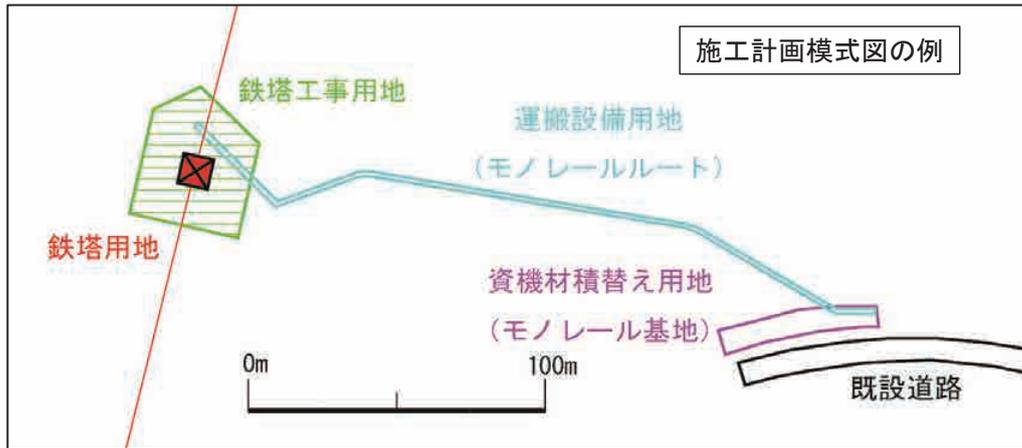
仮設ヘリポート

用途	内容
仮設ヘリポート	ヘリコプターの駐機、運搬設備用地（仮設道路）、 資機材積替え用地



工事計画 (1)

【環境影響予測評価書案p.4-1-4】



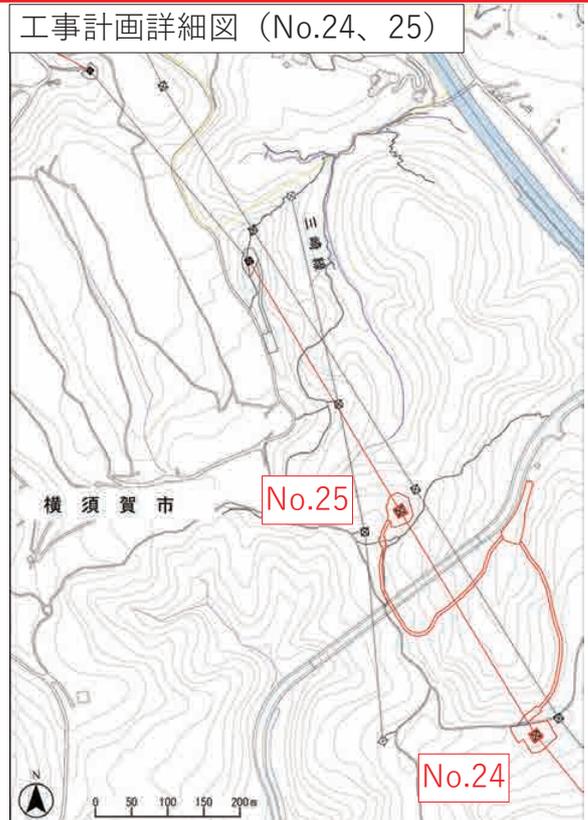
鉄塔番号等	変更内容	用途
No.24	鉄塔建替	鉄塔工事用地、資機材積替え用地(モノレール基地)、運搬設備用地(モノレールルート)
No.25	鉄塔建替	鉄塔工事用地、運搬設備用地(モノレールルート)
No.28	鉄塔建替	鉄塔工事用地、資機材積替え用地(モノレール基地)、コンクリート圧送用地、運搬設備用地(モノレールルート)
No.29	鉄塔建替	鉄塔工事用地
No.32	鉄塔建替	鉄塔工事用地、資機材積替え用地(モノレール基地)、運搬設備用地(モノレールルート)
No.33	鉄塔建替	鉄塔工事用地、運搬設備用地(モノレールルート)
仮設ヘリポート	鉄塔建替に付随のため	ヘリコプターの駐機、運搬設備用地(仮設道路)、資機材積替え用地



工事計画 (2)

【環境影響予測評価書案p.4-1-4、7】

鉄塔番号等	変更内容	用途	使用面積 (㎡)
No.24	鉄塔建替	鉄塔工事用地	1,735
		資機材積替え用地 (モノレール基地)	1,428
		運搬設備用地 (モノレールルート)	1,335
No.25	鉄塔建替	鉄塔工事用地	1,480
		運搬設備用地 (モノレールルート)	1,209

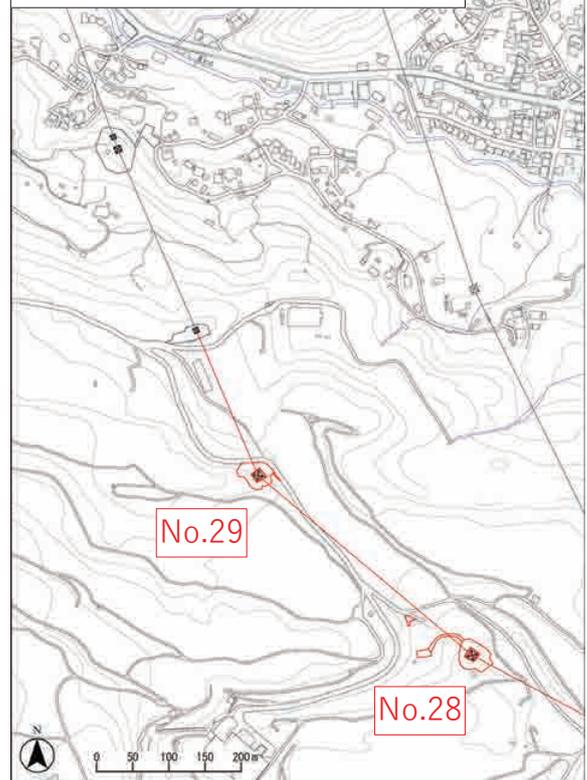


工事計画 (3)

【環境影響予測評価書案p.4-1-4、8】

鉄塔番号等	変更内容	用途	使用面積 (m ²)
No.28	鉄塔建替	鉄塔工事用地	1,755
		資機材積替え用地 (モノレール基地)	180
		コンクリート圧送用地	93
		運搬設備用地 (モノレールルート)	226
No.29	鉄塔建替	鉄塔工事用地	1,594

工事計画詳細図 (No.28、29)

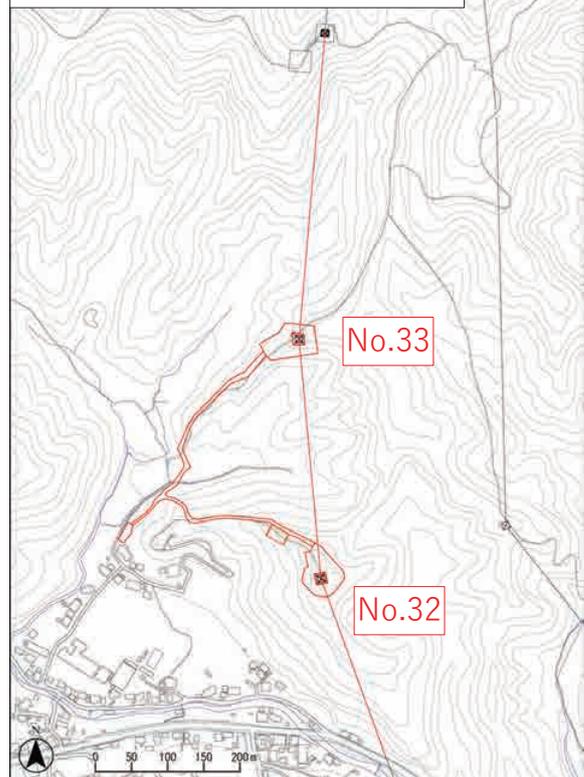


工事計画 (4)

【環境影響予測評価書案p.4-1-4、9】

鉄塔番号等	変更内容	用途	使用面積 (m ²)
No.32	鉄塔建替	鉄塔工事用地	2,777
		資機材積替え用地 (モノレール基地)	299
		運搬設備用地 (モノレールルート)	1,347
No.33	鉄塔建替	鉄塔工事用地	2,901
		運搬設備用地 (モノレールルート)	718

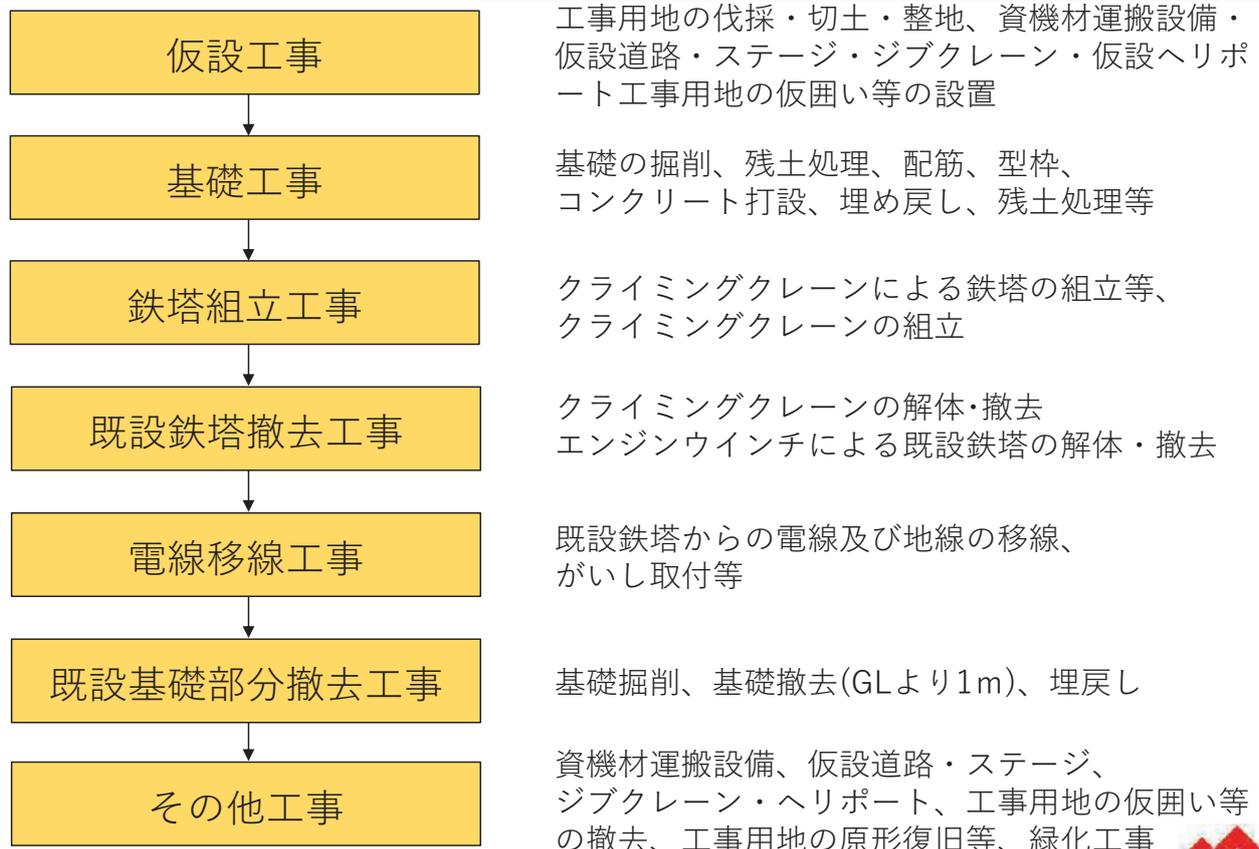
工事計画詳細図 (No.32、33)

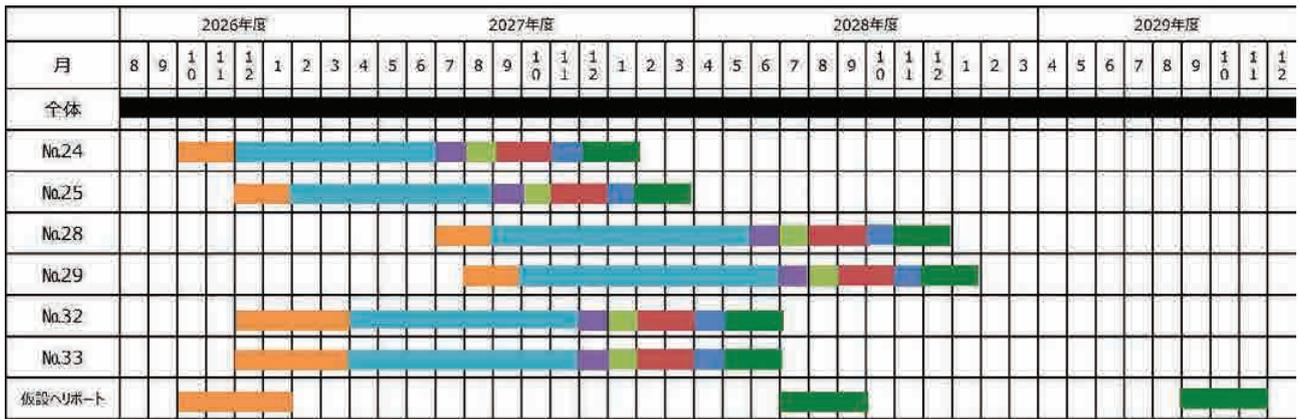


仮設ヘリポート計画地現況図



工事のフロー



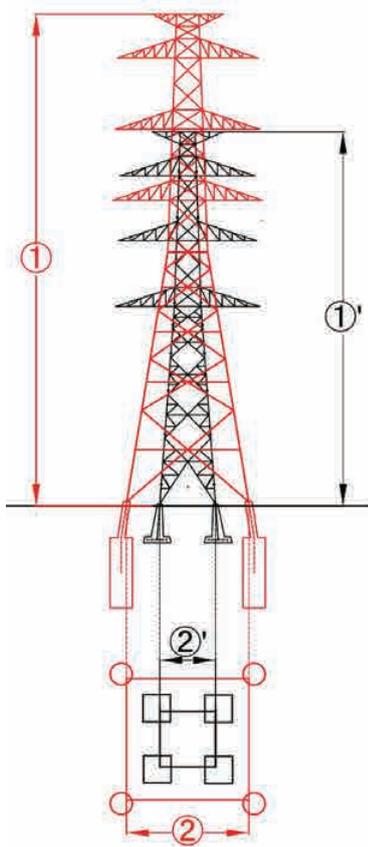


- 凡例
- ・仮設工事
 - ・基礎工事
 - ・鉄塔組立工事
 - ・既設鉄塔撤去工事
 - ・電線移線工事
 - ・既設基礎部分撤去工事
 - ・その他工事

- ～工事期間～
- 仮設工事：2～4ヵ月
 - 基礎工事：7～9ヶ月
 - 鉄塔組立工事：1ヶ月
 - 既設鉄塔撤去工事：1～2ヶ月
 - 電線移線工事：2ヶ月
 - 既設基礎部分撤去工事：1ヶ月
 - その他工事：2～3ヵ月



鉄塔及び基礎の概要

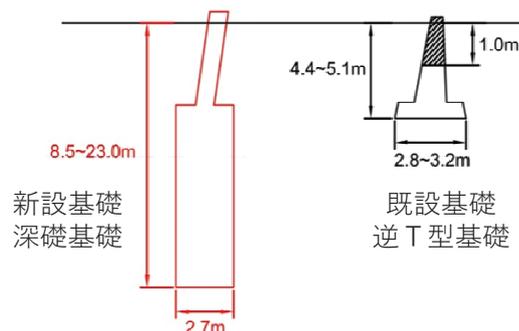


< 鉄塔高さ と 基礎間距離 >

鉄塔No.	鉄塔高(m)		基礎間距離(m)	
	既設(①')	新設(①)	既設(②')	新設(②)
24	39.9	53.8	7.4	13.8
25	53.3	73.0	7.6	13.7
28	38.3	58.3	7.1	10.7
29	39.8	53.4	7.4	10.9
32	42.8	59.3	8.2	12.3
33	41.3	64.8	7.8	13.7

- ・電線については太さ・条数の変更はなし(高さの変更のみ)
- ・送電線の幅は既設と同様

< 新設基礎形状図と既設基礎撤去図 >



工事内容（仮設工事）

【環境影響予測評価書案p.4-2-4~5】

工事用地の伐採・整地（参考）

伐採前



伐採後・整地



伐採木現地置き（施工例）



工事用地・ヘリポート伐採予定数量表(調査数量)

	胸高直径	10cm未満	11cm~22cm	23cm~31cm	32cm~40cm	41cm以上	合計
No.24	広葉樹	178	92	26	7	5	308
	針葉樹	0	0	0	0	0	0
No.25	広葉樹	261	139	26	16	12	454
	針葉樹	2	2	2	7	0	13
No.28	広葉樹	204	69	28	7	9	317
	針葉樹	0	2	4	4	2	12
No.29	広葉樹	230	47	4	3	2	286
	針葉樹	0	1	0	0	0	1
No.32	広葉樹	322	338	103	33	39	835
	針葉樹	0	4	23	19	10	56
No.33	広葉樹	88	97	36	19	14	254
	針葉樹	0	9	10	6	0	25
ヘリポート	広葉樹	351	440	42	11	2	846
	針葉樹	2	6	1	0	0	9
合計		1,638	1,246	305	132	95	3,416

- ・過去に使用した工事用地(モノレールルート含)を活用し、新規の伐採範囲の縮小化を図る。
- ・伐採木は玉切り後整理し現地置きとするが、切株・立木等を活用し転落防止を図る。



工事内容（仮設工事）

【環境影響予測評価書案p.4-2-5】

仮設道路・仮囲い（施工例）



仮設道路（鋼製マット）



ガード鋼板・防音パネル



ロープ柵
(モノレールルート・山間部の工事用地・迂回路の誘導等)



キャスターゲート
(モノレール基地)



ガードフェンス
(モノレール基地)



工事内容（仮設工事）

【環境影響予測評価書案p.4-2-6~7】

仮設ステージ・
ジブクレーン（施工例）



ジブクレーン
（荷役設備）の準備

ヘリコプター運搬（施工例）



※構築中

ヘリコプター用ステージ
（離着陸・荷吊り降ろし）

モノレール運搬（施工例）



モノレールによる運搬状況



仮設ステージ
（作業構台）の準備



ヘリコプター運搬



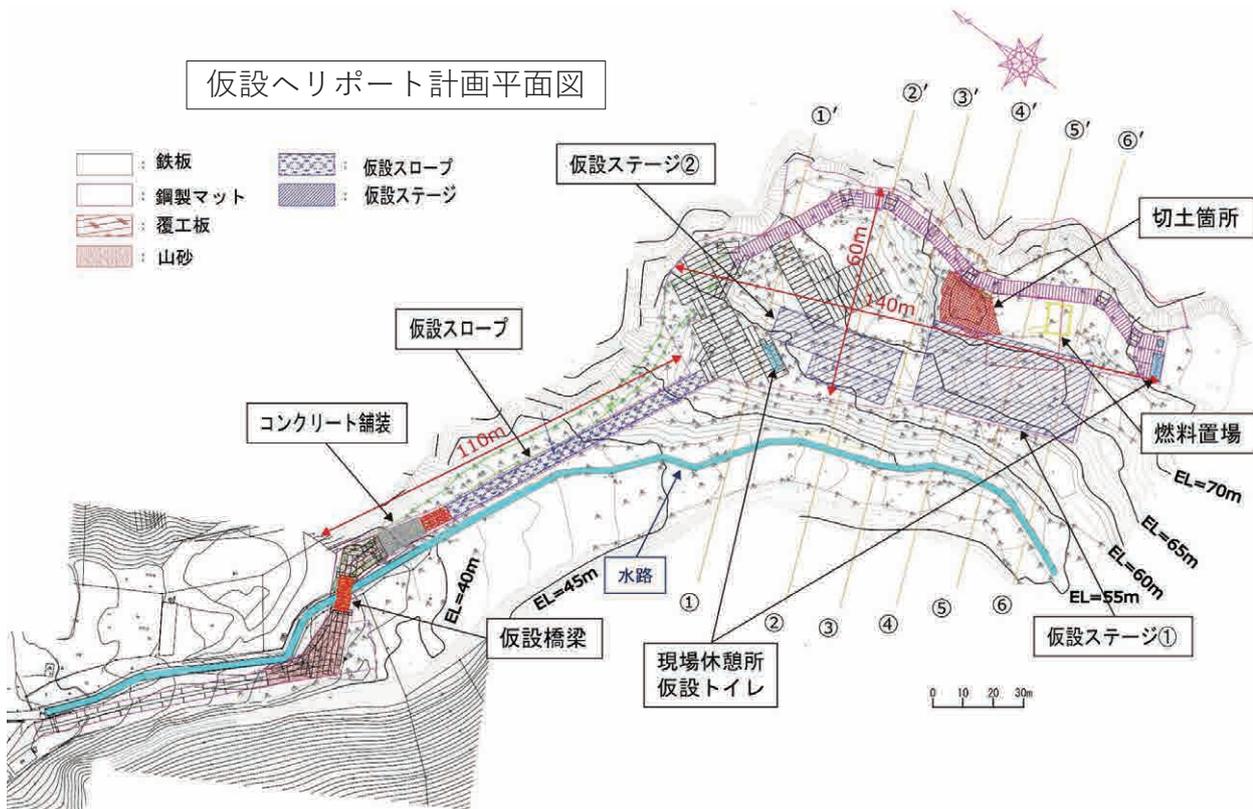
ハイキングコース横断部



工事内容（仮設工事）

【環境影響予測評価書案p.4-2-8他】

仮設ヘリポート計画平面図



工事内容（基礎工事）

【環境影響予測評価書案p.4-2-12】



工事内容（基礎工事）

【環境影響予測評価書案p.4-2-12~13】

掘削工事



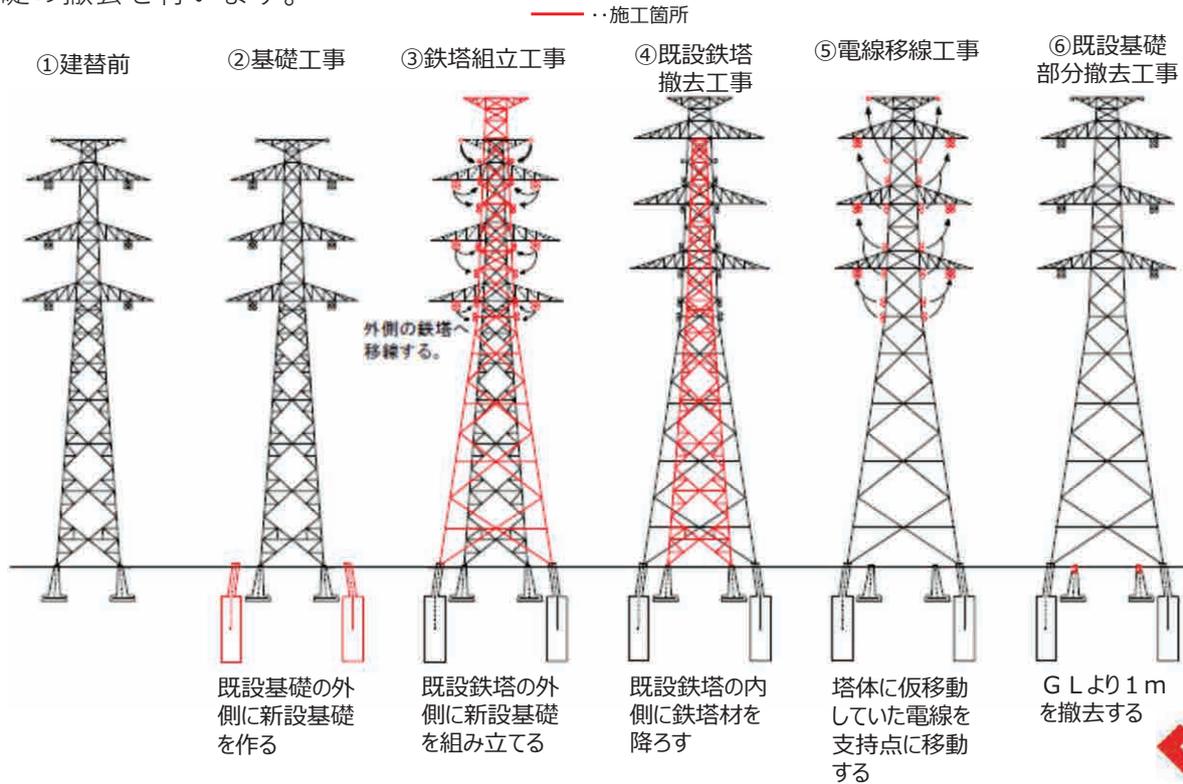
鉄筋配筋・コンクリート打設



工事内容（鉄塔組立工事）

【環境影響予測評価書案p.4-2-2】

鉄塔組立は山間地であることから、クライミングクレーンを使用し行います。クライミングクレーンは既設鉄塔の中に配置し、新設鉄塔組立後撤去します。その後、既設鉄塔の撤去(解体)・基礎の撤去を行います。



©TEPCO Power Grid, Inc. All Rights Reserved.

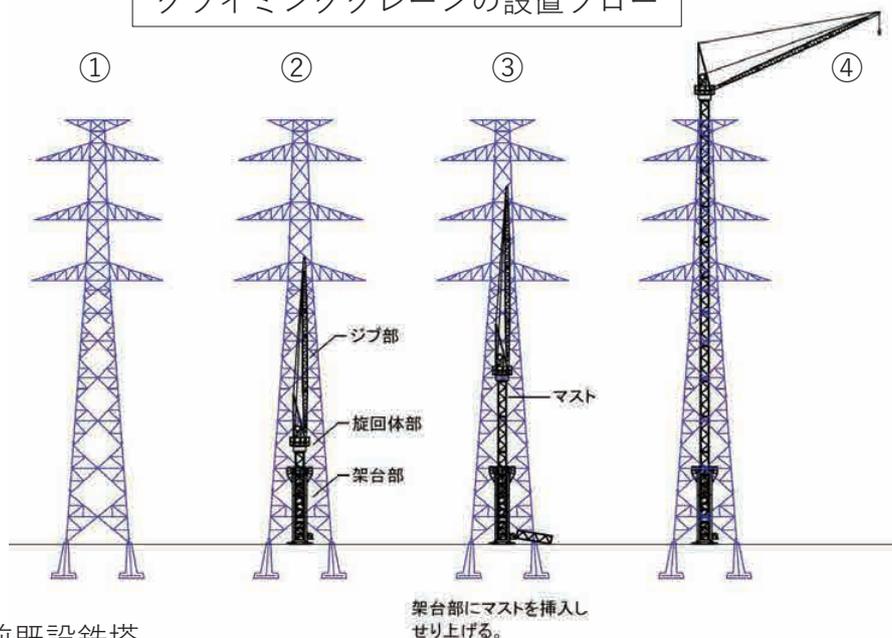
無断複製・転載禁止 東京電力パワーグリッド株式会社

26

工事内容（鉄塔組立工事）

【環境影響予測評価書案p.4-2-14】

クライミングクレーンの設置フロー



- ①：設置前既設鉄塔
- ②：架台部組立既設鉄塔塔体内へ架台部を配置する
- ③：クライミングクレーンせり上げマストを挿入しながらクレーンをくみ上げる
- ④：クライミングクレーン設置完了

©TEPCO Power Grid, Inc. All Rights Reserved.

無断複製・転載禁止 東京電力パワーグリッド株式会社

27

工事内容（鉄塔組立工事）

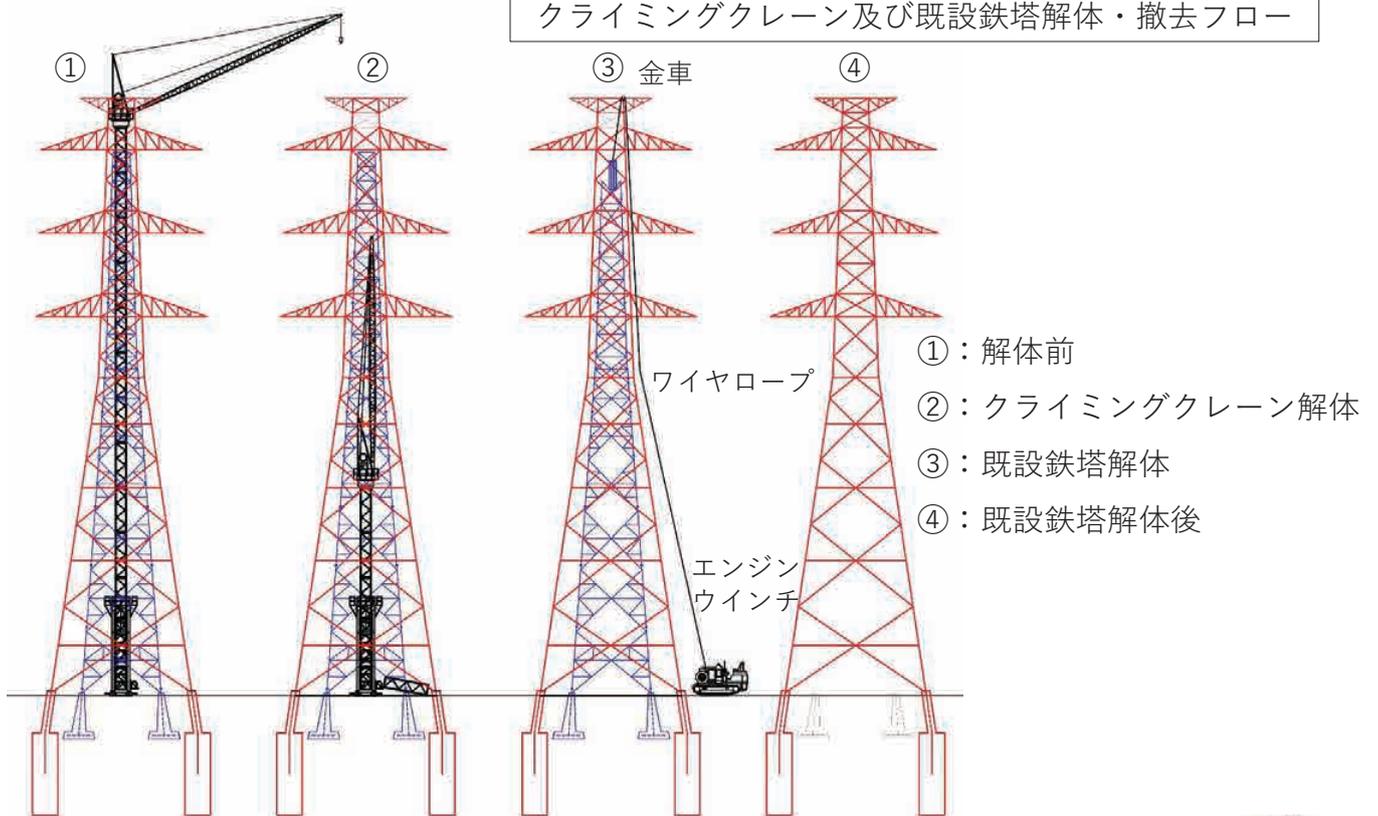
【環境影響予測評価書案p.4-2-15】



工事内容（既設鉄塔撤去工事）

【環境影響予測評価書案p.4-2-16】

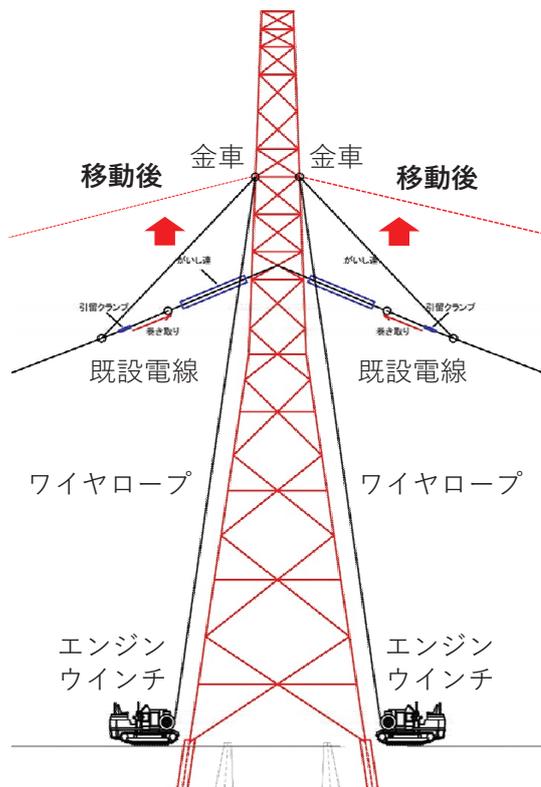
クライミングクレーン及び既設鉄塔解体・撤去フロー



工事内容（電線移線工事）

【環境影響予測評価書案p.4-2-17】

電線移線工事



©TEPCO Power Grid, Inc. All Rights Reserved.

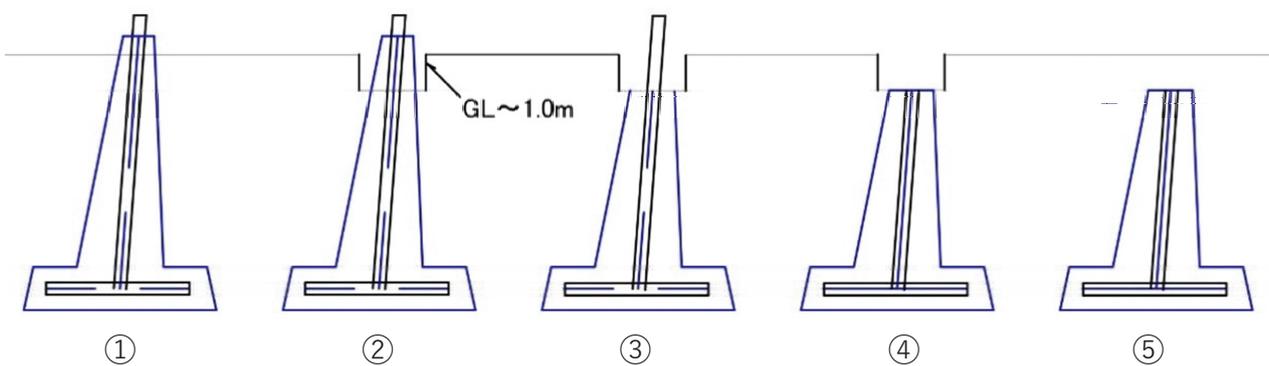
無断複製・転載禁止 東京電力パワーグリッド株式会社

30

工事内容（既設基礎部分撤去工事）

【環境影響予測評価書案p.4-2-17~18】

既設基礎部分撤去フロー



- ①：撤去前
- ②：既設基礎周囲掘削
- ③：基礎コンクリート壊し
- ④：鉄塔基礎材切断(山形鋼材)
- ⑤：埋め戻し

©TEPCO Power Grid, Inc. All Rights Reserved.

無断複製・転載禁止 東京電力パワーグリッド株式会社

31

工事内容（その他工事）

【環境影響予測評価書案p.4-2-18】

必要に応じて斜面の安定化のための施工を行う。
また、工事用地の原状復帰は基本的に天然更新（ぼう芽更新・天然下種更新）とするが、5年間経過しても更新されない場合や裸地化した場合は樹木等の植栽を行う。

斜面の安定化のための施工例



樹木の植栽例



資材運搬ヘリコプター

【環境影響予測評価書案p.4-2-25~27】

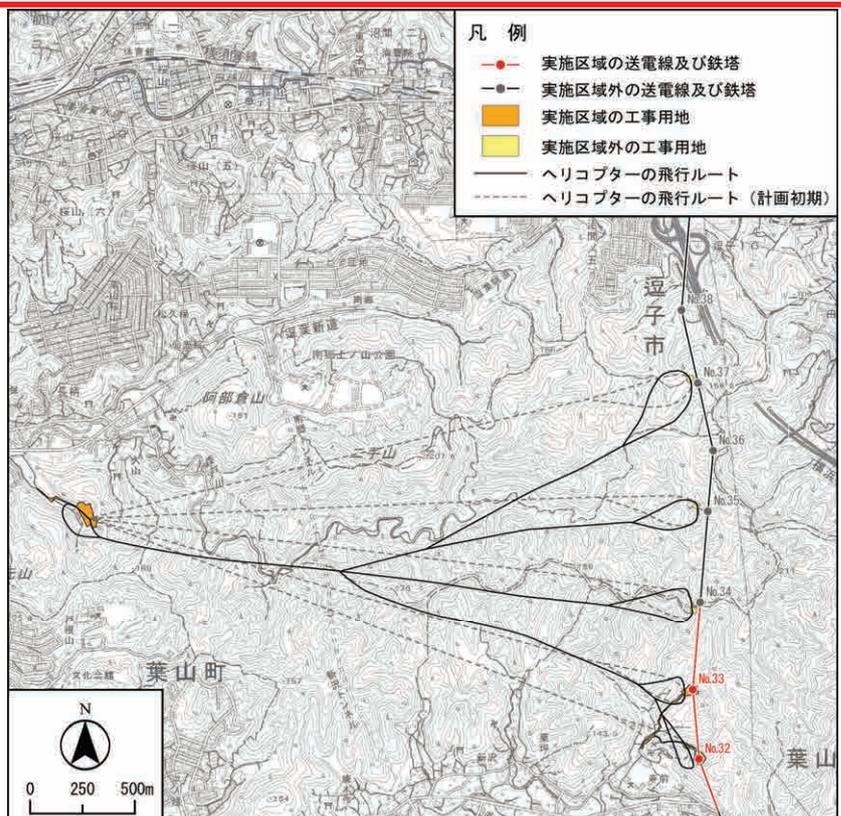
◆飛行ルート選定時の配慮事項

以下の場所に配慮して選定

- ・住宅地や学校等の公共施設
(環境影響予測評価書案p.3-2-26)
- ・ハイキングコース
(環境影響予測評価書案p.3-2-136)
- ・重要な動物種の生息場所
(非公開版p.5-2-157等)

◆主な運搬資機材(2 t・6m以上)

鉄塔材、がいし装置、架線金具、
コンクリート、鉄筋、ライナー、
残土、ジブクレーン、掘削機械
(バックホウ)、発電機、
ステージ等の仮設機材、
モノレール機材



2. 評価項目



評価項目 (1)

【環境影響予測評価書案p.5-1-2】

区分		工事の実施					土地又は工作物の存在及び供用	
評価項目	評価細目	環境影響要因		建設機械の稼働	工事用車両の走行	資材運搬ヘリコプターの飛行	送電線路の存在	送電線路の稼働
		造成等	仮設ヘリポートの設置					
大気汚染	大気汚染	二酸化硫黄						
		一酸化炭素						
		浮遊粒子状物質						
		二酸化窒素						
水質汚濁	水質汚濁							
土壌汚染	土壌汚染							
騒音・低周波音	騒音			○	○	○		
	低周波音					●		
振動	振動			○	○			
地盤沈下	地盤沈下							
悪臭	悪臭							
廃棄物・発生土	廃棄物	○	●					
	発生土	○	●					
電波障害	テレビジョン電波障害							
日照障害	日照障害							
反射光 (太陽電池)	反射光							

注) 赤字で記載した箇所は、実施計画書より追加、変更した項目等を示す。



区分		工事の実施					土地又は工作物の存在及び供用	
評価項目	環境影響要因 評価細目	造成等	仮設ヘリポートの設置	建設機械の稼働	工事用車両の走行	資材運搬ヘリコプターの飛行	送電線路の存在	送電線路の稼働
水象	河川							
	地下水							
	海域							
地象	傾斜地							
	地形・地質							
植物・動物・生態系	植物	○	●					
	動物	○	●	○	○	○		
	水生生物							
	生態系	○	●	○	○	○		
文化財	文化財							
景観	景観						○	
レクリエーション資源	レクリエーション資源	○		○	○	○		
温室効果ガス	温室効果ガス							
地域分断	地域分断							
安全	危険物等	●				●		
	交通							

注) 赤字で記載した箇所は、実施計画書より追加、変更した項目等を示す。



3. 環境影響予測評価の手法等



調査の手法

調査項目	調査方法・時期
地形、工作物等	既存資料調査
土地利用	既存資料調査
発生源	既存資料調査
騒音・低周波音・振動レベル	騒音・低周波音・振動レベル測定 平日に1回

予測の手法

予測項目	予測方法	
騒音	建設機械	予測式（ASJ CN-Model 2007）
	工事用車両	予測式（ASJ RTN-Model 2023）
	ヘリコプター	距離伝播式
低周波音	ヘリコプター	使用予定のヘリコプターの低周波音を基に、騒音の理論伝搬式等を用いた予測式
振動	建設機械	道路環境影響評価の技術手法で示されている予測式
	工事用車両	



騒音・低周波音・振動

調査地点

○環境騒音・振動・低周波音

No.1：上山口小学校

○環境騒音・低周波音調査地点

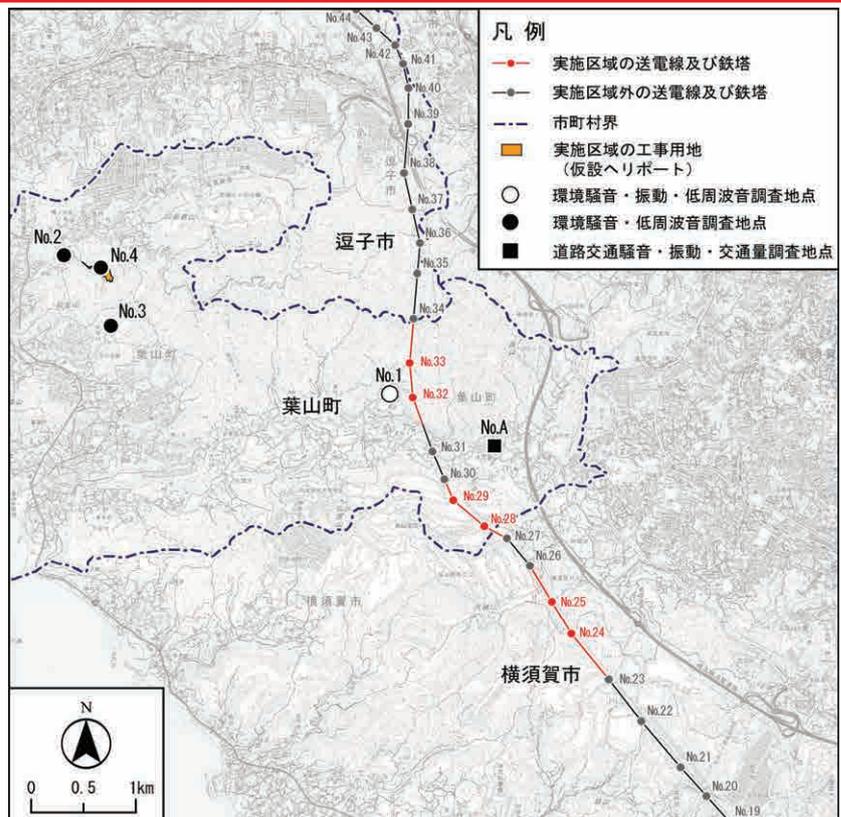
No.2：長柄小学校

No.3：葉山中学校

No.4：仮設ヘリポート

○道路交通騒音・振動・交通量

No.A：横須賀葉山線



調査の手法

調査項目		調査方法
廃棄物	再使用・再生利用状況	既存資料調査
	中間処理状況	既存資料調査
	最終処分状況	既存資料調査
発生土	処分状況	既存資料調査
	再利用状況	既存資料調査

予測の手法

予測項目	予測方法
廃棄物	工事の種類と排出する廃棄物の種類及び量を、既存の工作物の撤去計画や類似事例等を基に推定
発生土	発生土の搬出量及び利用量を、事業計画や類似事例等を基に推定



調査の手法

調査項目		調査方法	調査時期
植物	植物相	任意踏査	早春季、春季、夏季、秋季に各1回
	植生	植物社会学的手法	夏季に1回
	重要種	上記の調査結果から抽出	—
動物	哺乳類	直接観察法(フィールドサイン法)等	春季、夏季、秋季、冬季に各1回
	鳥類	ラインセンサス法等	12~2月、5~7月に各2回、8~11月、3~4月に各1回
	猛禽類	行動圏調査等	2~7月(8月)に各1回
	爬虫類	直接観察法	夏季に2回、秋季に1回
	両生類	直接観察法	春季、夏季、秋季、冬季に各1回
	昆虫類	直接観察法等	4~5月、6月に各2回、7~8月、9~10月に各1回
	陸産貝類等	直接観察法	春季、夏季、秋季に各1回
	重要種	上記の調査結果から抽出	—

注) そのほか、聞き取り調査を実施した。

予測の手法

予測項目	予測方法
植物	植物の生育環境と事業計画を重ね合わせるにより、生育地が変化する程度を定量的に予測
動物	動物の生育環境と事業計画を重ね合わせるにより、生息地が変化する程度を定量的に予測 定量的に把握することが困難な場合は、生態等に関する知見や類似事例を参考に定性的に予測

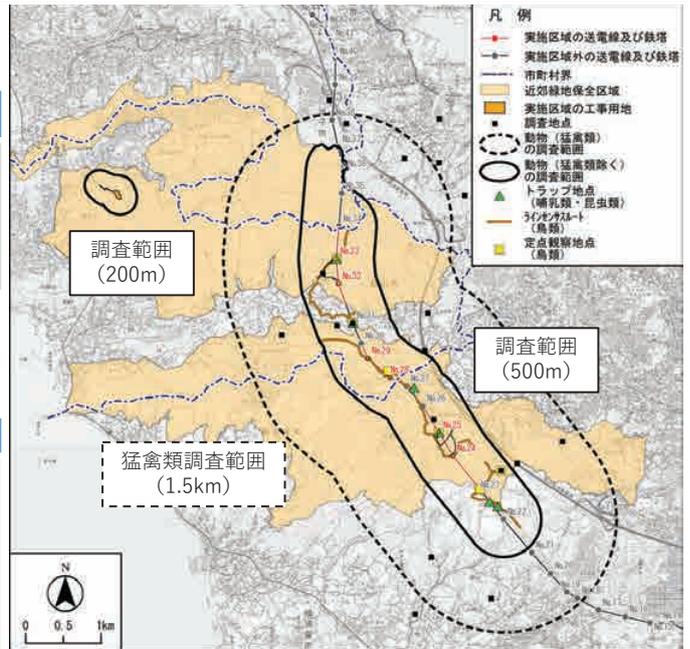


調査の手法

調査項目		調査方法
生態系	環境類型区分	植物及び動物の調査結果に基づき区分及び選定
	注目種・群集等の状況	

予測の手法

予測項目	予測方法
生態系	<p>事業計画を重ね合わせることで、環境類型区分ごとに変化する生態系について、定量的に予測</p> <p>上位性、典型性及び特殊性の観点から選定した複数の注目種・群集等の状況について類似事例を参考に予測</p>



注) 猛禽類を除いた調査範囲の設定理由は、環境影響予測評価書案p.5-2-19、86に示している。



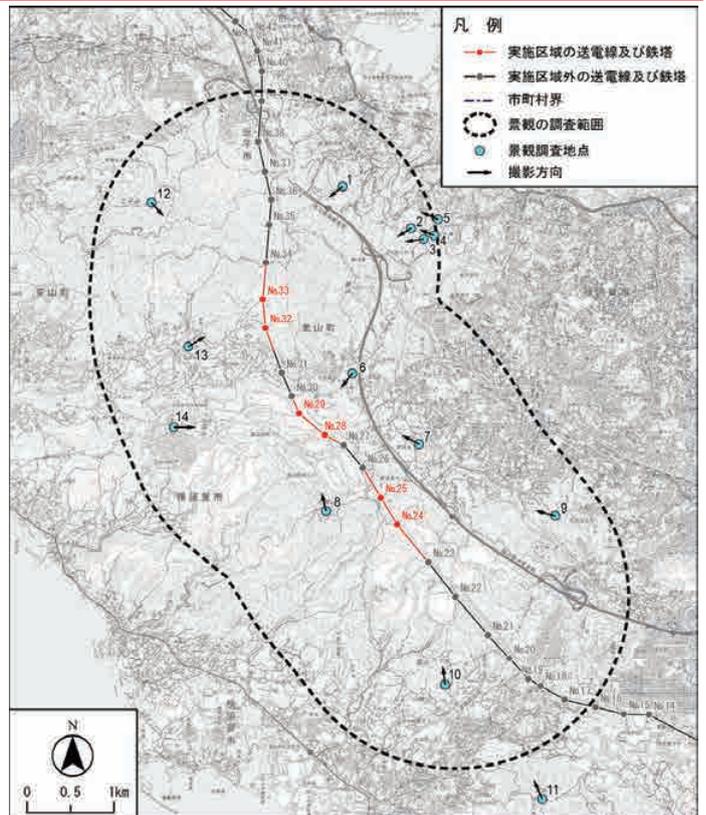
調査の手法

調査項目	調査方法・時期
主要な眺望地点等 景観資源	既存資料調査及び必要に応じて現地踏査
主要な眺望景観等	写真撮影等の現地調査 春季、夏季、秋季、冬季に各1回

No.	名称	No.	名称
1	田浦梅の里展望塔	8	大楠山
2	鹿島台	9	衣笠山公園 展望台
3	富士見台	10	太田和つじの丘
4	塚山公園 見晴台	11	武山(武山不動)
5	塚山公園 展望デッキ	12	二子山展望台
6	木古庭会館	13	上山口会館
7	しょうぶ園 展望台	14	湘南国際村グリーンパーク

予測の手法

予測項目	予測方法
景観	フォトモンタージュの完成予想図により予測



調査の手法

調査項目	調査方法・時期
土地利用	既存資料調査及び必要に応じて現地踏査
レクリエーション資源	既存資料調査、現地調査及び聞き取り調査 春季、夏季、秋季の休日に各1回

予測の手法

予測項目	予測方法
景観	レクリエーション資源の利用状況、工事計画と保全対策等を勘案し、類似事例等に基づいて予測



安全

調査の手法

調査項目	調査方法・時期
規制基準	既存資料調査
類似施設	既存資料調査
土地利用	既存資料調査
気象	既存資料調査
地形及び工作物	既存資料調査

予測の手法

予測項目	予測方法
危険物等	事業内容、災害予防及び災害拡大防止に係る環境保全対策を基に予測



4. 環境影響予測評価

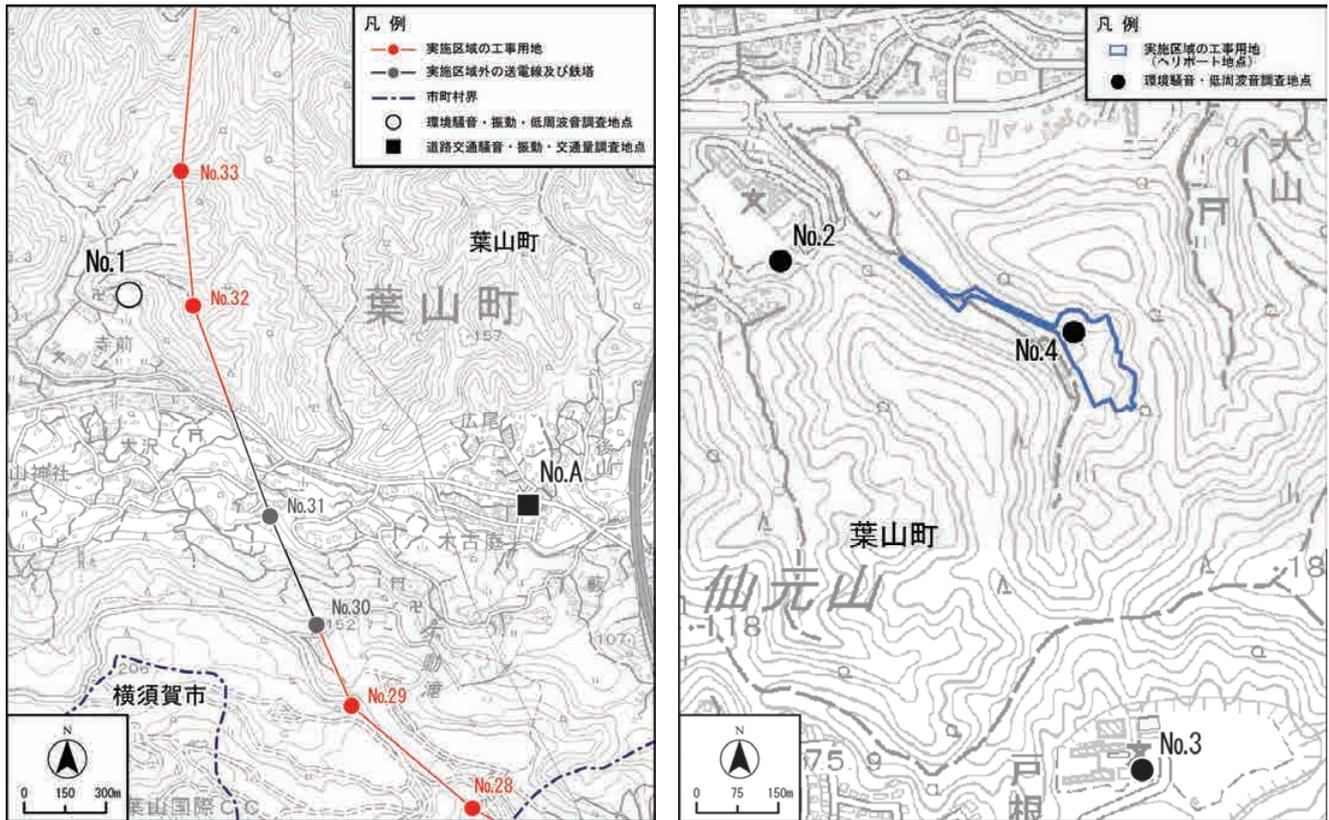


騒音

【環境影響予測評価書案p.5-2-4~9、284~301】

用途	内容
調査結果	<ul style="list-style-type: none">○既存資料調査 3市町の地形、建築物、工作物、主要な道路及び鉄道等を把握○現地調査 環境騒音：48～54dB 道路交通騒音：67dB 自動車交通量：大型車822台、小型車13,330台、二輪車1,208台
予測結果	<ul style="list-style-type: none">○建設機械の稼働 62dBと予測、規制基準(85dB)未満○工事用車両の走行 68dBと予測、要請限度(70dB)未満○資材運搬ヘリコプターの飛行 41～61dBと予測、ピークレベルは74～94dBと予測(参考)
環境保全対策	<ul style="list-style-type: none">○工事時間の制限、低騒音・低振動型建設機械の採用○ヘリコプター運搬とモノレール運搬を併用した飛行回数の削減○飛行時間帯・1日当たりの飛行時間の制限・各学校との協議結果の反映○住宅に隣接する工事用地への防音パネルの適用
評価結果	整合を図るべき基準等と予測結果の間に整合が図られており、実行可能な範囲内ではできる限り低減され、実施区域周辺に対する環境の保全等について適正に配慮していると評価

騒音・振動・低周波音の調査地点（詳細図）



低周波音

用途	内容
調査結果	<ul style="list-style-type: none"> ○既存資料調査 3市町の地形、建築物、工作物、主要な道路及び鉄道等を把握 ○現地調査 低周波音：48～54dB (1/3オクターブバンド平坦特性音圧レベル)、60～69dB(G特性音圧レベル)
予測結果	<ul style="list-style-type: none"> ○資材運搬ヘリコプターの飛行 75.7～110.4dBと予測(1/3オクターブバンド平坦特性音圧レベル) 97.7～117.7dBと予測(G特性音圧レベル) ※心理的影響、物理的影響の参考値を超過
環境保全対策	<ul style="list-style-type: none"> ○ヘリコプター運搬とモノレール運搬を併用した飛行回数の削減 ○飛行時間帯・1日当たりの飛行時間の制限・各学校との協議結果の反映
評価結果	<p>環境保全に関する基準等との整合性に係る評価では、整合を図るべき基準等と予測結果の間に整合が図られていないため、「運用前にテスト飛行を実施し、その結果から各地点における対策を検討し実施する」等の保全対策を実施し、周辺の環境影響を低減するよう努める環境影響の回避・低減に係る評価では、実行可能な範囲内でできる限り低減され、実施区域周辺に対する環境の保全等について適正に配慮していると評価</p>

◆ 低周波音に係る整合を図るべき基準

以下の資料から、整合を図るべき基準を設定した。

○心理的影響

- ・「低周波音防止対策事例集」に示される「低周波音及び可聴音の不快さを感じる感覚（中村らの実験結果）」

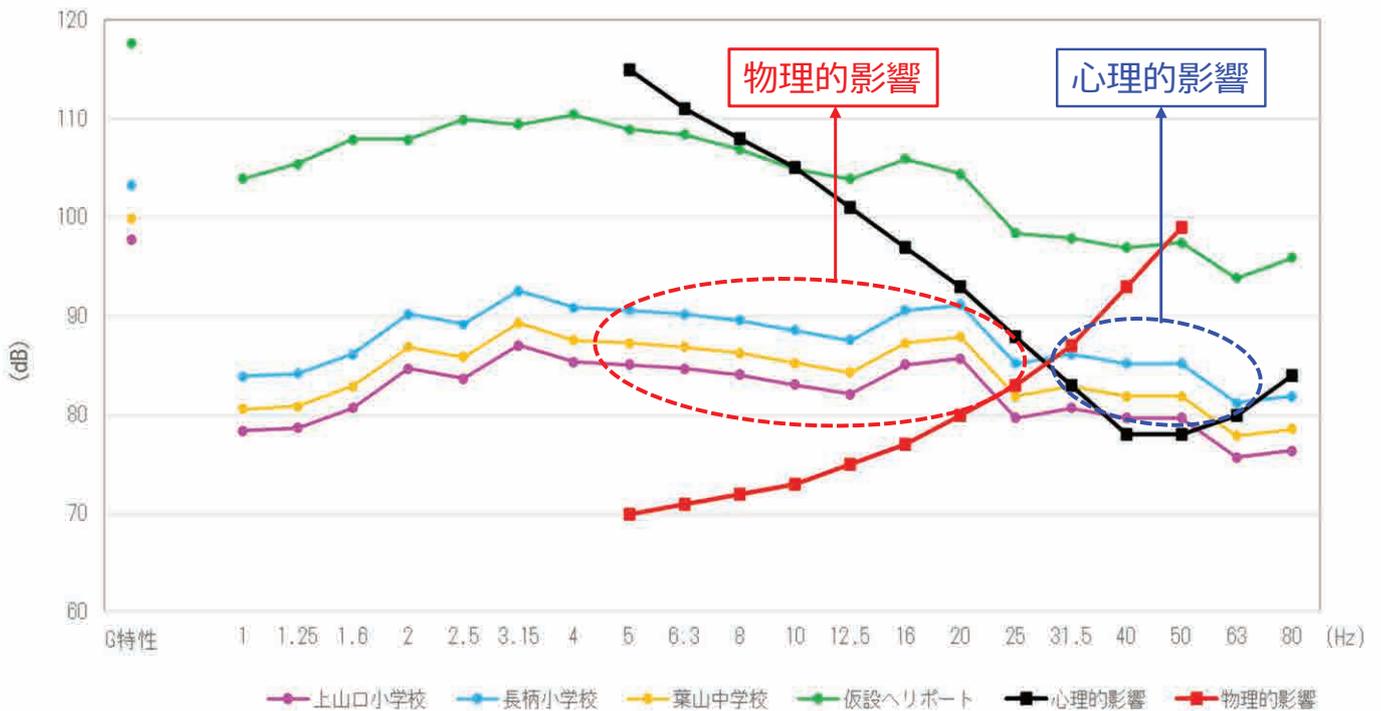
○物理的影響

- ・「低周波音防止対策事例集」に示される「低周波音により建具ががたつきはじめる値」

	中心周波数 (Hz)																			
	1	1.25	1.6	2	2.5	3.15	4	5	6.3	8	10	12.5	16	20	25	31.5	40	50	63	80
心理的影響	-	-	-	-	-	-	-	115	111	108	105	101	97	93	88	83	78	78	80	84
物理的影響	-	-	-	-	-	-	-	70	71	72	73	75	77	80	83	87	93	99	-	-



資材運搬ヘリコプターの飛行に伴う低周波音の評価



振 動

【環境影響予測評価書案p.5-2-10~15、310~317】

用 途	内 容
調査結果	○既存資料調査 3市町の地形、建築物、工作物、主要な道路及び鉄道等を把握 ○現地調査 環境振動：12dB 道路交通振動：35dB、16.5dB(地盤卓越振動数) 自動車交通量：騒音と同様
予測結果	○建設機械の稼働 41dBと予測、規制基準(75dB)未満 ○工事用車両の走行 37dBと予測、要請限度(70dB)未満
環境保全対策	○工事時間の制限、建設機械の日々の点検整備・アイドルングストップ・集中稼働の回避 ○低騒音・低振動型建設機械の採用 ○通勤車両と資機材運搬車両の時間別の運行
評価結果	整合を図るべき基準等と予測結果の間に整合が図られており、実行可能な範囲内のできる限り低減され、実施区域周辺に対する環境の保全等について適正に配慮していると評価



廃棄物・発生土

【環境影響予測評価書案p.5-2-16~18、318~322】

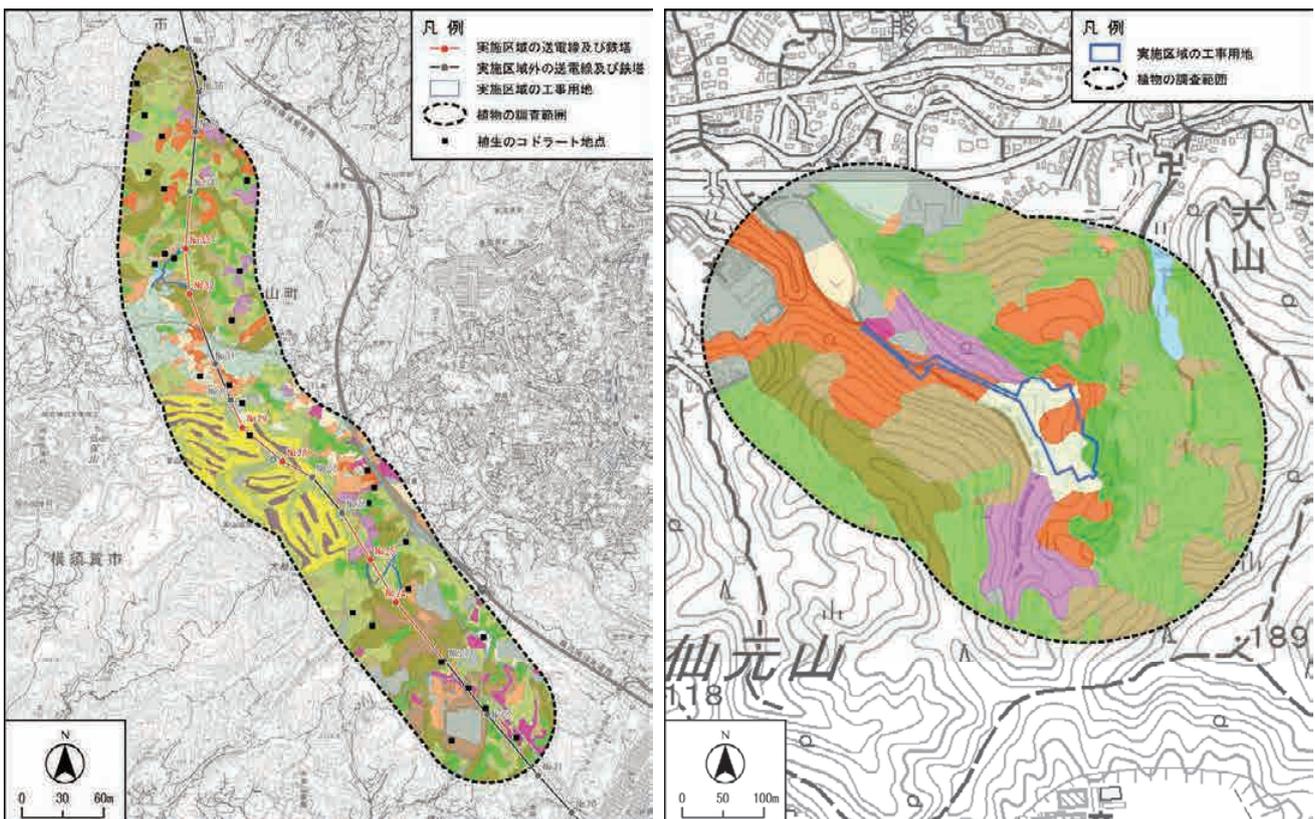
用 途	内 容
調査結果	○既存資料調査 神奈川県における廃棄物の再使用・再利用及びその活用の状況、中間処理、最終処分の状況、発生土の処分施設の状況、発生土の利用先の状況を把握
予測結果	○廃棄物 工事の実施に伴い合計66.8 t のコンクリートガラが発生する ※金属くず及び陶磁器くずは、有価物として売却し再利用する。 ○発生土 基礎の掘削に伴い合計2,340 m ³ 、工事用地の掘削に伴い約513 m ³ の発生土が生じる
環境保全対策	○廃棄物は産業廃棄物の分別・再資源化・適正な保管と処分等 ○現場使用する油類保管場所の確保と適正な処分計画の立案 ○発生土のフレコンバック使用による飛散防止と速やかな場外搬出
評価結果	環境保全に対する基準等との整合が図られており、実行可能な範囲内のできる限り低減され、実施区域周辺に対する環境の保全等について適正に配慮していると評価



用途	内容
調査結果	<ul style="list-style-type: none"> ○植物相 現調査では135科891種、聞き取り調査では3種の植物を確認 ○現存植生、群落構造、潜在自然植生 現存植生18区分、植生自然度8区分、潜在自然植生4区分の植物群落を確認 ○重要な植物種及び植物群落 確認された植物のうち、20種が重要種に該当 重要な植物群落は確認されなかった
予測結果	<ul style="list-style-type: none"> ○生育地に変化が生じる又は変化が生じる可能性がある植物 実施区域からは離れているが、工事用車両の走行により影響を受ける可能性があるセンダイスゲ
環境保全対策	<ul style="list-style-type: none"> ○回 避→マーキング・仮保護柵等の設置・作業員への情報周知等 ○最小化→伐採区域の天然更新及び必要に応じた植樹の実施
評価結果	<p>環境保全についての配慮は適正に行われ、実行可能な範囲内のできる限り回避・低減されていると評価</p>

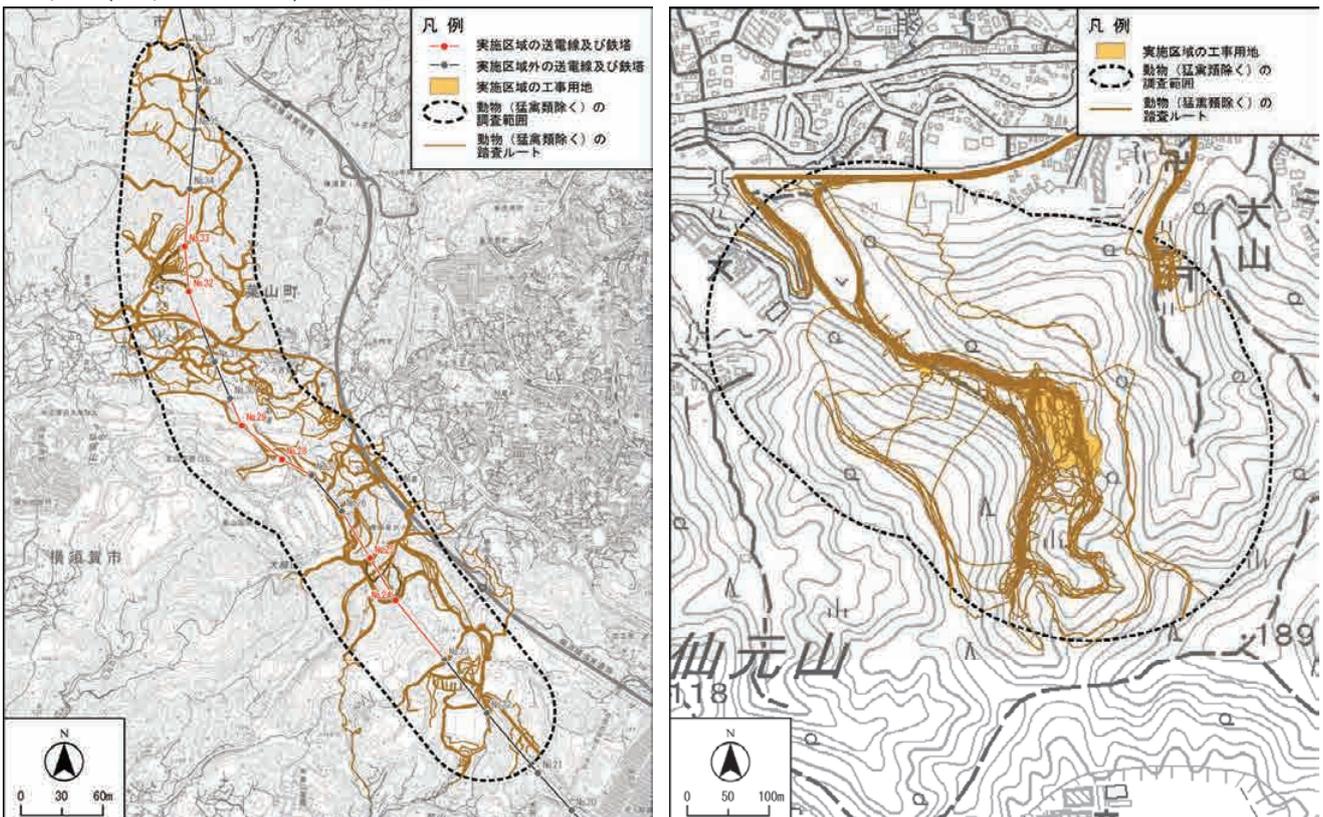


現存植生図



用途	内容
調査結果	<p>○動物相 現地調査では哺乳類6目10科11種、鳥類14目35科76種、猛禽類8種、爬虫類1目6科10種、両生類2目6科8種、昆虫類22目225科1,037種、陸産貝類3目14科49種、クモ類23科83種、聞き取り調査では鳥類13種、爬虫類2種、両生類3種、昆虫類12種の動物を確認</p> <p>○重要な動物種、個体群及びその生息地 確認された動物のうち、哺乳類1種、鳥類27種、爬虫類6種、両生類5種、昆虫類42種、陸産貝類11種、クモ類5種が重要種に該当</p>
予測結果	<p>○生息地に変化が生じる又は変化が生じる可能性がある動物 鳥類及び猛禽類のオオタカ、陸産貝類のスルガギセル、ヌカキビ、ヒメハリマキビ、ウメムラシタラ、オオウエキビ</p>
環境保全対策	<p>○最小化→低騒音型建設機械の使用と集中稼働の回避 繁殖期を避けた伐採作業・ヘリコプター運搬の制限(オオタカ(対象工事外)) 資材置き場の最小化・作業員の不要な立ち入りの制限(陸産貝類) 伐採区域の天然更新及び必要に応じた植樹の実施</p> <p>○代償→林縁部での倒木残置や落ち葉集積等による生息環境の創出</p>
評価結果	<p>環境保全についての配慮は適正に行われ、実行可能な範囲内のできる限り回避・低減されていると評価</p>

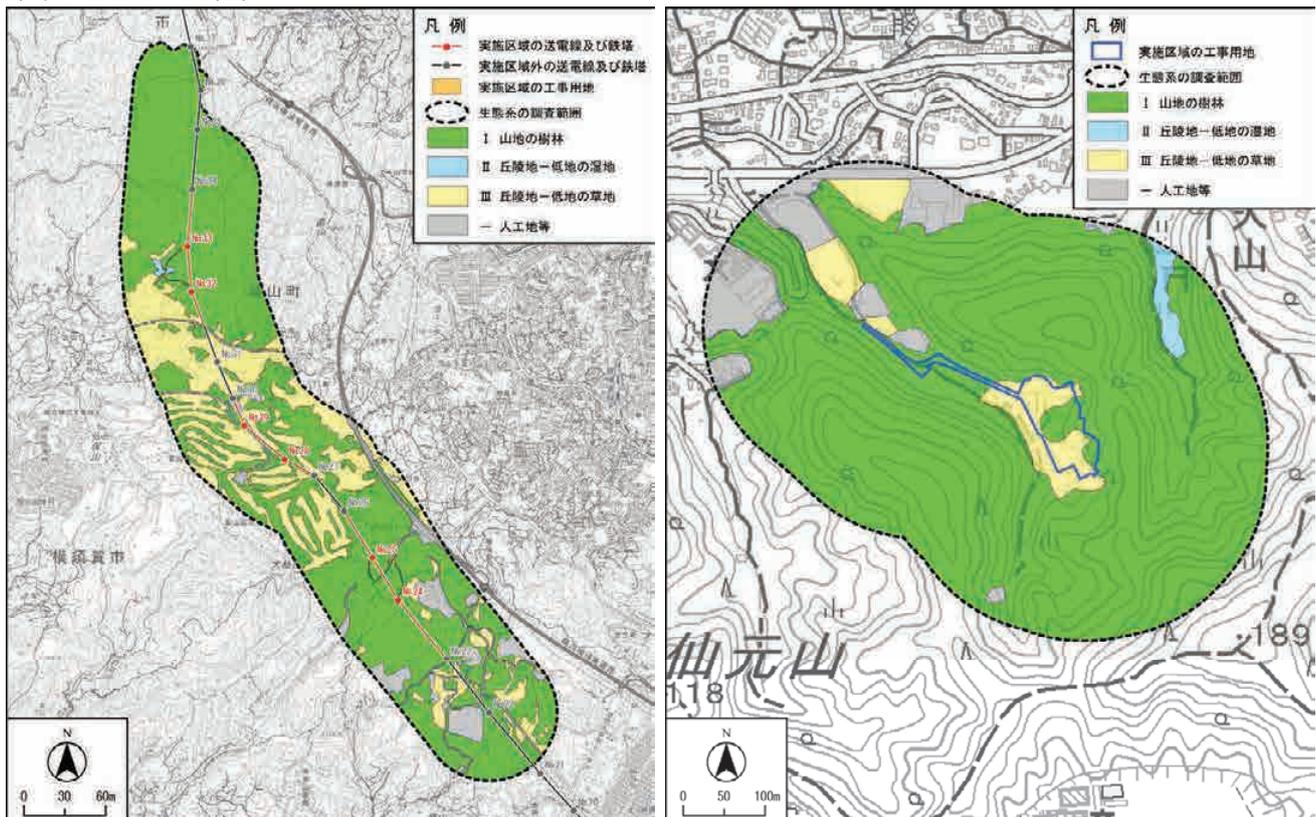
動物（猛禽類除く）の踏査ルート



用途	内容
調査結果	<ul style="list-style-type: none"> ○環境類型区分 山地の樹林(69.88%)、丘陵地-低地の湿地(0.20%)、丘陵地-低地の草地(22.97%)の3タイプに区分 ○注目種・群集等の状況 上位性：タヌキ(哺乳類)、オオタカ(鳥類)、アオダイショウ(爬虫類) 典型性：アカメガシワ-カラスザンショウ群落(植物)、ノウサギ(哺乳類)、ヒヨドリ(鳥類)、ニホンカナヘビ(爬虫類)、ヤマアカガエル(両生類)
予測結果	<ul style="list-style-type: none"> ○生息地に変化が生じる可能性がある指標種 上位性のオオタカ
環境保全対策	<ul style="list-style-type: none"> ○最小化→低騒音型建設機械の使用と集中稼働の回避 繁殖期を避けた伐採作業・ヘリコプター運搬の制限(オオタカ(対象工事外)) 資材置き場の最小化・作業員の不要な立ち入りの制限 伐採区域の天然更新及び必要に応じた植樹の実施
評価結果	<p>環境保全についての配慮は適正に行われ、実行可能な範囲内のできる限り回避・低減されていると評価</p>



環境類型区分図



用途	内容
調査結果	○既存資料調査 3市町の主要な眺望地点及び景観資源の状況等を把握 ○現地調査 主要な仰望地点及び身近な視点14地点における景観の状況、眺望の有無、視認できる対象鉄塔の把握 ⇒対象鉄塔が視認できる地点は7地点
予測結果	フォトモンタージュ法による予測結果では、各地点(7地点)の垂直視野角は1.1° ~3.5° であり、比較的細部まで見えるものの、圧迫感を受けるほどではない
環境保全対策	○横須賀市・逗子市・葉山町の景観計画等の基準を遵守
評価結果	環境保全に対する基準等との整合が図られており、実行可能な範囲内でできる限り低減され、実施区域周辺に対する環境の保全等について適正に配慮していると評価





No.13 上山口会館：冬季

注) No.33については、航空標識設置（赤白塗色）の免除基準である、鉄塔周辺2 km以内に鉄塔頂部より高い山があるため、設置免除の協議を進めている。

©TEPCO Power Grid, Inc. All Rights Reserved.

無断複製・転載禁止 東京電力パワーグリッド株式会社



レクリエーション資源【環境影響予測評価書案p.5-2-267~273、404~407】

用途	内容
調査結果	<ul style="list-style-type: none"> ○既存資料調査 3市町の土地利用状況、レクリエーション資源の状況等を把握 ○現地調査 大楠山山頂の地点に置いて聞き取り調査を実施し、利用者の属性、利用状況、利用頻度等を把握 ⇒利用者は春季203名、夏季98名、秋季93名
予測結果	<p>工事用車両の走行ルートとハイキングコースが重なる箇所について、道路の構造や本事業による工事用車両の増加量を基に予測を行った結果、影響は小さいと予測 また、環境保全対策の実施により、影響は低減する</p>
環境保全対策	<ul style="list-style-type: none"> ○ハイキングコースを寸断しないモノレールルート（モノレール橋の構築による横断） ○利用者に配慮したモノレール運転と誘導員の配置 ○迂回路の構築
評価結果	<p>環境保全に対する基準等との整合が図られており、実行可能な範囲内でできる限り低減され、実施区域周辺に対する環境の保全等について適正に配慮していると評価</p>



用 途	内 容
調査結果	<p>○既存資料調査 以下の内容を把握した</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセチレンガス及びケロシン系ジェット燃料における消防法等個別法の技術基準、市町村及び県の定める基準、指針等 ・同様の工事の実施時の事故、トラブルの状況等 ・実施区域及び周辺地域の保安物件の分布状況 ・横浜地方気象台における気象の観測結果
予測結果	<p>危険物等の取扱い及び保管は、高圧ガス保安法及び消防法等を遵守し、消防署等、関係機関と協議の上、実施することにより、危険物等の漏洩に伴う火災、爆発等に係る安全性は確保されるものと予測</p>
環境保全対策	<p>○危険物等の取扱い及び保管は高圧ガス保安法及び消防法等を遵守（消防署・関係機関と協議） ○火気の取り扱いや保管容器の取り扱いは火災防止の措置を実施</p>
評価結果	<p>危険物等に係る安全性は実行可能な範囲内でできる限り低減され、実施区域周辺に対する環境の保全等について適正に配慮していると評価</p>



5. 事後調査計画



事後調査計画の選定

【環境影響予測評価書案p.5-4-1】

区分		工事中					供用時	
評価項目	評価細目	環境影響要因						
		造成等	仮設ヘリポートの設置	建設機械の稼働	工事用車両の走行	資材運搬ヘリコプターの飛行	送電線路の存在	送電線路の稼働
騒音・低周波音	騒音			○	○	○		
	低周波音					○		
振動	振動			○	○			
廃棄物・発生土	廃棄物	×	×					
	発生土	×	×					
植物・動物・生態系	植物	○	×				○	
	動物	○	×	○	○	○	○	
	生態系	○	×	○	○	○	○	
景観	景観						○	
レクリエーション資源	レクリエーション資源	×	×	×	×	×		
安全	危険物等	×				×		

○：選定 ×：非選定

注) 選定・非選定の理由は、環境影響予測評価書案p.5-4-1に示している。



事後調査の計画 (1)

【環境影響予測評価書案p.5-4-1~5】

項目	調査対象	実施時期	調査地域及び地点	事後調査の内容
騒音	<ul style="list-style-type: none"> 建設機械の稼働 工事用車両の走行 資材運搬ヘリコプターの飛行 	工事中	5地点	騒音レベル測定 基礎工事 平日1回 <ul style="list-style-type: none"> ・8時~18時(建設機械の稼働) ・6時~22時(工事用車両の走行) ・8時~17時(資材運搬ヘリコプターの飛行)
低周波音	<ul style="list-style-type: none"> 資材運搬ヘリコプターの飛行 	工事中	4地点	低周波音レベル測定 基礎工事 平日1回 <ul style="list-style-type: none"> ・8時~17時
振動	<ul style="list-style-type: none"> 建設機械の稼働 工事用車両の走行 	工事中	2地点	低周波音レベル測定 基礎工事 平日1回 <ul style="list-style-type: none"> ・8時~17時(建設機械の稼働) ・8時~19時(工事用車両の走行)
植物	<ul style="list-style-type: none"> センダイスゲ 	工事中	1箇所	環境保全対策を実施した個体の生育状況確認 <ul style="list-style-type: none"> ・9~11月 年1回
	<ul style="list-style-type: none"> 伐採された工事用地の樹木の更新状況 	供用時	地域森林計画対象民有林に含まれる工事用地	工事用地の天然更新の状況確認、状況に応じて植樹の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・各箇所1回



事後調査の計画 (2)

【環境影響予測評価書案p.5-4-6~8】

項目	調査対象	実施時期	調査地域及び地点	事後調査の内容
動物	・ オオタカ	工事中		定点調査及び林内踏査 ・ 2~7月 年6回以上
	・ 伐採された工事用地の樹木の更新状況	供用時	地域森林計画対象民有林に含まれる工事用地	工事用地の天然更新の状況確認、状況に応じて植樹の実施 ・ 各箇所1回
生態系	・ オオタカ	工事中	3地区 各2地点	定点調査及び林内踏査 ・ 2~7月 年6回以上
	・ 伐採された工事用地の樹木の更新状況	供用時	地域森林計画対象民有林に含まれる工事用地	工事用地の天然更新の状況確認、状況に応じて植樹の実施 ・ 各箇所1回
景観	・ 対象鉄塔の眺望	供用時	7地点	景観状況の確認 ・ 冬季 1回



事後調査報告書の提出時期

【環境影響予測評価書案p.5-4-8】

事後調査の時期	項目	提出時期
工事中	騒音	事後調査を実施し、基礎工事がすべて完了した段階で調査結果を整理して提出する。 なお、事後調査報告の内容は、下記の植物・動物・生態系とまとめて提出する。
	低周波音	
	振動	
	植物	各年の事後調査結果を整理し、調査年の12月に各項目の調査結果をまとめ、年1回提出する。
	動物	
	生態系	
供用時	植物	伐採後5年経過した工事用地の樹木を対象に事後調査を実施し、すべての調査が終了した年の12月に調査結果をまとめ、1回提出する。
	動物	
	生態系	
	景観	送電線の通電を開始した年に事後調査を実施し、1回提出する。



ご清聴ありがとうございました。

